

# 西村クリニック便り 第130号



発行元

西村クリニック

四條畷市楠公1-14-6

072-862-3001

私の友人のIさん。とある病院の薬剤師をされており名前はイサオ（130）さんと呼びます。今回西村クリニック便り第130号を発刊するにあたり、イサオ（130）さんから原稿を頂きましたので今月号と来月号の2回に分けて掲載させていただきます。  
院長 西村 章

西村クリニックファミリーに加えていただき二度目の登場になります薬剤師130（いさお）です。

西村クリニック便り130号おめでとうございます。130号を祝して130が担当させていただきます。さて、今回はボーイスカウトのお話をさせていただきます。ボーイスカウトってご存知でしょうか？そう！あの軍服みたいな制服（現在のデザインはイブ・サンローランなのですよ）を着て活動している青少年の活動です。英国発祥で我が国でも100年を超える歴史があります。その活動は幼稚園年長さんから大学卒業までの期間にキャンプなどの野外活動を中心とするプログラムを通じて小グループで共に活動し、その経験を分かち合うことで各年代ごとに適切な市民性と意志決定（リーダーシップ）を習得する様な活動をしています。私も小学校4年生から大学を卒業するまでの間スカウト活動をしました。所属している団（ボーイスカウトでは所属する組織を団といいます）は今年60周年を迎えましたので私の活動した時期はちょうど発団5～15年の黎明期から発展期に活動しておりました。スカウトは日頃から“人のお世話にならぬよう 人のお世話をしよう そして 報いを求めぬよう”（日本連盟初代総裁後藤新平の言葉）をスカウトスピリッツとして日々活動するのです。そしてスカウトは、ひとたびスカウトに誓いを立ててなりし身はいつもいつもスカウトだといわれており、今の今もスカウトなのです。活動を退いてからもスカウトモットー『そなえよつねに』と『日々の善行』を生活の糧として私も人生を刻んで参りました。そんな私のところに令和2年に育成会（活動の裏方役）を手伝ってもらえないかと団の委員長（彼は私が班長をしていた当時私の班員でした）に請われ38年振りにボーイスカウト活動に復帰しました。私は浦島太郎状態でボーイスカウト活動に復帰してまず驚いたのは、平成8年から女子の参加が許されていたことです。よく似た活動にガールスカウト活動がありますが、こちらは「すべての少女と女性が自分らしく生きられる社会を目指す」活動のため男子の参加は許されておりません。ボーイスカウトにガールが!?!?と思いましたが、現在スカウト活動の主体は活発な女子たちに引っ張られているといっても過言ではなく、『おいボーイ達よしっかりしなさい!』と思う事も少なくありません。2010年現在216の国々で3200万人のスカウトが登録されています。しかし、この5年以上に及んだコロナ禍にあって野外活動が中心となるスカウト活動も停滞は免れませんでした。パンデミックがあけた今ほど青少年が大自然の中でチームを作って心身を鍛えお互いの絆を深めるといふスカウト活動の重要性が高まっている時ではないかと考えています。さらに、グローバル化進む現在社会において国際愛と人道主義を実践しより良き世界の実現を目指すスカウト精神こそがこれからはますます求められるようになっていくことでしょう。この活動に興味がおありになる方は受付にパンフレットがありますのでご参照下さい。※）そんなボーイスカウトの活動ですが、あまり世の中に知られていない出来事として今年には終戦80年ですのでいまから80年以上も前の太平洋戦争南方戦線でのスカウト友情物語を紹介して筆をおきます。 薬剤師 130

インフルエンザの予防接種のご予約が始まりました  
接種代金を添えて受付までお願いします

130さんのボーイスカウトのパンフレットは  
カウンターにご用意させていただいております